



新しい“つくば”にいざ集合！ 第18回研究発表会inつくば 直前情報 「廃棄物学」の将来の姿を一緒に議論しませんか！？

第 18 回廃棄物学会研究発表会が 11 月 19 日（月）～21 日（水）の 3 日間、つくば国際会議場にて開催されます。例年通りの質の高い多数の研究発表（口頭発表 203 編およびポスター発表 160 編）に加えて、学会の将来を議論する特別企画が目白押し。詳しくは研究発表会の参加案内（<http://jswme.gr.jp/taikai2007/>）をご覧ください。以下では今回の研究発表会の特徴や目玉企画などを中心に、開催直前情報としてご紹介したいと思います。

特別シンポジウム

（11 月 20 日（火）13:15～15:00 大ホール）

第 1 部 廃棄物学会 法人化・将来構想検討会企画
「廃棄物学」と学会の将来に向けて（13:15～14:00）

午後に特別企画として、これまでの「廃棄物学」の変遷を振り返り、その原点を確認するとともに今後の展開を考えるための企画です。本シンポジウムでは「廃棄物学」と学会の将来について、改めて考える機会をつくりたいと考えています。

1. 特別講演

廃棄物学会会長 武田信生

将来の学会がどのようなアイデンティティを持つべきか、「廃棄物学」という呼称におさまるのかを、個々の会員に問題提起をする。

2. 法人化・将来構想検討会報告

法人化・将来構想検討会長 澤地 實

法人化の準備状況と将来構想案について報告するとともに、その内容についての会員の意見をアンケート形式でお伺いします。

第 2 部 特別講演（14:00～15:00）

「ごみと地球温暖化ーごみ問題・3R とのかかわり
を考えるー」

第 2 部は、ごみ問題・3R と地球温暖化を考える特別講演です。ごみ問題・3R について、エネルギー問

題、資源問題、温暖化対策と連動させて考える必要があります。

1. 特別講演 「低炭素社会到来は転機（仮）」

西岡秀三（独）国立環境研究所 参与

2. 解説 「ごみ問題・3R と脱温暖化・低炭素社会 のかかわりを考える（仮）」

森口祐一（独）国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長

同時開催行事

（11 月 20 日（火）15:10～16:50 大ホール）

中央環境審議会 循環型社会計画部会
「循環基本計画の見直しについて（仮）」

環境省および中央環境審議会では、循環型社会形成推進基本計画（2003 年策定）の見直しの検討を進めております。その見直しプロセスは多様な意見を踏まえるべきとの認識から、中央環境審議会循環型社会計画部会を研究発表会の公開の場において開催し、意見を聞こうとするものです。皆様方の積極的なご参加・貢献を是非ともお願い致します。



その他の魅力的な行事

日韓両学会の連携協力による国際シンポジウム、各研究部会企画による小集会などでも最新のトピックスが話題として取り上げられ、興味深い討論などが行われる予定です。国際シンポジウムのテーマは「有害廃棄物のマテリアルフローとリスク管理」、小集会では、温暖化やバイオマス、レアメタルとリサイクル、アスベストなど負の遺産など各研究部会それぞれの問題意識と最新動向を反映したものです。

関連イベントとして、国際ワークショップ、全国環境研究所協議会の研究発表会の同時開催などは是非覗いてみたいイベントも予定されています。

近くなった新しいつくばの地でふたたび！

つくばでの研究発表会は4年前にも開催されましたが、2年前につくばエクスプレス（TX）が開通し、東京（秋葉原）からの所要時間は最短で45分になり、とても便利になりました。晩秋のつくばの地で多くの関



係者が集い、廃棄物、そしてわが国の循環型社会の未来について、一緒に議論しあえたらと思います。皆様のご参加を心からお待ちしております。

（写真提供 つくばコンベンションビューロー）

第18回

廃棄物学会研究発表会

2007年11月19日（月）～11月21日（水）
つくば国際会議場（エポカルつくば）〒305-0032 つくば市竹園2丁目20-3
参加費：正会員、公益・賛助会員所属8,000円 学生会員、賛助団体市民会員4,000円 非会員12,000円

研究発表

11月19日（月）13:15～17:00
20日（火）9:15～12:15
21日（水）9:45～14:30

ポスターセッション

11月19日（月）17:00～18:30 多目的ホール
20日（火）17:00～18:30 多目的ホール

特別企画

11月20日（火）13:15～15:00 大ホール
第1部 法人化・将来構想検討会企画
「廃棄物と学会の将来に向けて」
第2部 特別講演「ごみと地球温暖化」
（独）国立環境研究所、西岡秀三、他

公開企画

11月20日（火）15:10～16:50 大ホール
環境省中央環境審議会 循環型社会計画部会

国際シンポジウム

11月19日（月）15:00～17:00 中ホール 2F
「有害廃棄物のマテリアルフローとリスク管理」

研究部会小集会

11月19日（月）有害廃棄物・試験検査、計画、社会経済、埋立、若手の会
21日（水）ごみ文化、リサイクル、施設、バイオマス、行政、消費者市民

市民展示

11月19日（月）～11月21日（水）2階コンコース市民展示会場

施設見学会

11月19日（月）9:00（品川駅）～13:00（つくば国際会議場）
東京スーパーエコタウン（バイオマス発電施設）定員 30人 参加費 3,000円（昼食代込）

意見交換会

11月20日（火）18:40～20:30 エントランスホール
参加費（当日）正会員・一般 6,000円（7,000円）、学生 2,500円（3,000円）

関連行事

11月21日（水）13:00～16:40 3F 全国環境研究機関協議会廃棄物小委員会 研究発表会
11月21日（水）～11月22日（木）4F E-waste 国際ワークショップ

主催 廃棄物学会
学会ホームページで詳細をご覧ください <http://www.jswm.gr.jp/>
〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前ビル5F Tel 03-3769-5099 Fax 03-3769-1492

デザイン：加藤あずさ

廃棄物学会主催 技術セミナー

廃棄物のトレーサビリティー先端技術と導入事例

廃棄物発生抑制やリサイクルの推進を目的にICタグ（RFID）、GPS、GIS、モバイル通信等を活用した廃棄物の追跡システムが実施されています。一般廃棄物、産業廃棄物（医療廃棄物、建設廃棄物）を対象に分別・収集、運搬、中間処理施設の間でどのように導入されているか、その最前線の事例を自治体、大学、コンサルタント、中間処理事業者、建設会社等の立場から紹介していただき討論します。

開催日時：平成20年1月22日（火）
13:00～17:00（受付12時）

開催場所：独立行政法人産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館 11階会議室1（11205室）
東京都江東区青海2-41-6
TEL:03-3599-8028 <http://www.aist.go.jp/>

講演内容

- ICタグを活用した構内廃棄物分別収集システム（東京大学）
- GPS及びGISを活用した、校区単位家庭ごみ量の推計システムについて（福岡市環境局）

- ICタグを活用した医療廃棄物追跡システム事業（東京都環境局）
- 中間処理事業からみた医療廃棄物トレーサビリティ（クレハ環境）
- ICタグを活用した次世代型廃棄物・リサイクルマネージメントシステム（日本総研）
- ICタグを活用した建設副産物の次世代型ゼロエミッションシステムの事例（積水ハウス）

参加費：10,000円（当日申し受けます。）

定員：50名（先着順、定員になり次第締め切ります。）

申込方法：①氏名、②所属、③連絡先、④TEL、⑤FAX、⑥参加人数をご記入の上、廃棄物学会事務局までFAXでお申し込みください。

申込期間：平成19年12月3日（月）～12月28日（金）

申込後の案内：申込締切後、参加者に受付書をFAXで連絡します。

申込先：廃棄物学会事務局

Tel:03-3769-5099 Fax:03-3769-1492

※詳細については、廃棄物学会ホームページをご覧ください。
(<http://www.jswm.gr.jp/>)

関西支部市民セミナー開催報告

平成 19 年 7 月 28 日（土）に、大阪市立弁天町市民学習センターにて、～「農からの発想」と「小学校でのごみ減量の取り組み」に学ぶ～をテーマに「市民と学生のためのセミナー」が開催された。セミナーには 69 名が参加し、2 名の講師から具体的な活動内容や体験について、熱心に語って頂いた。

まず、「小学校でのごみ減量の取り組み」と題して、誠之小学校用務主事の小長谷忠春氏が、窪町小学校における成功事例について講演された。ごみ減量に重要な内部からの意識改革を粘り強く行い、分別意識を向上させたこと、分別間違いをなくすため、週に一回の児童との共同作業を実施し、児童も次第に分別作業を自主的に取り組んだ結果、大幅なごみ減量に繋がったことなどが紹介された。

次に、「農から世界が見える」と題して、農民・詩人である星寛治氏が講演された。奥羽山脈の麓で 30 年以上にわたる有機農業の実践から得られた経験をもとに、地球温暖化問題、食育の大切さ、学校農業の提案、都市との交流、共生に力点を置いた環境の町づくりなど、数多くのテーマについて「農」の観点からわかり

やすく語って頂いた。

なお、本セミナーは一部、平成 19 年度大阪湾広域臨海環境整備センター環境保全市民活動等助成金の助成により開催させて頂いた。開催に当たりご協力頂いた関係者各位に厚く御礼申し上げます。

（関西支部 長澤松太郎 記）



平成19年度廃棄物学会九州支部総会報告

平成 19 年 6 月 16 日（土）に、ホテルレガロ福岡（福岡市）において、平成 19 年度九州支部総会、講演会及び懇親会が開催された。

総会は、会則の定める定数を超える出席数を得て成立した。平成 18 年度の事業報告、収支決算報告、監査報告、平成 19 年度の活動計画案、収支予算案の審議が行われ、いずれの議案についても承認された。平成 19

年度は、支部活動をさらに活発化させるため、これまで行ってきた市民フォーラム、施設研修会に加え、調査研究部会の設立、支部会員の廃棄物に関わる業務・研究データベースを広報部会が構築することが提案され、承認された。このような活動を通じて、今後九州支部をさらに活性化させていく予定である。

講演会には 44 名の参加があった。講師としてフードコラムニストの伊豆美沙子氏を招き、「身土不二のすすめ」と題するご講演を頂いた。「食」にまつわる話題を中心に、関連する社会問題、農業問題、国際問題、そして廃棄物問題といった多種多様なお話を頂いた。その中でも「食のキーワードは 40」（40 年前、40km 以内の地元産の物を食べる）、「脱トウモロコシ時代、私たち日本人はこれから鯨を食べていく」等のお話が、特に印象に残った。

懇親会には 31 名の参加があり、会員相互の近況報告や情報交換、学会活動に関する意見交換が活発になされた。

（九州支部 中山裕文 記）



【お知らせ】

第5回アジア太平洋埋立国際会議 (APLAS Sapporo 2008) 要旨募集と登録開始のお知らせ

日 時：2008年10月22日（水）～24日（金）
場 所：京王プラザホテル札幌（札幌市中央区）
主 催：アジア太平洋埋立国際会議札幌2008実行委員会
（札幌市、廃棄物学会、NPO 最終処分場技術システム研究協会）

要旨提出：2007年11月30日（金）締切

発表区分：今回より、口頭発表、ポスター発表の他に、ハイブリッド発表（口頭発表7分+ポスター発表）を加えました。

要旨提出方法：ホームページより「要旨提出フォーム」をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局宛に電子メールかfaxにて送付願います。

会議登録：ホームページより、オンライン登録できます。

問い合わせ先：APLAS 札幌現地事務局

電子メール：aplas08@eng.hokudai.ac.jp

URL：<http://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/aplas/>

廃棄物学会事務局からお知らせ

平成19年10月18日に、事務局のパソコンのサーバーが業者の作業時のミスによりトラブルが生じました。直ちにメンテナンス業者の責任において、復元作業を行いましたが、平成19年4月以降の入力データが復元できない状況となりました。現在、再構築に全力で取り組んでおりますが、会員の皆様方にご迷惑をおかけしますことをお詫び申し上げます。

なお、今後は、再発防止対策としてバックアップサーバーを複数化するなど万全を尽くしてまいります。

会 員 状 況

H19.9.30 現在

()内は、H19.4.1以降の増減

正 会 員	3,102	(-98)
学生会員	327	(+29)
外国人会員 (DM)	26	(+2)
登録団体市民会員	5	(+1)
公益会員	105	(-1)
賛助会員	150	(-1)
計	3,715	(-68)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.101 平成19年11月1日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

<http://www.jswme.gr.jp>

R100

印刷媒体は古紙配合率100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.62(October)

英文ニューズレター第62号が発行されました。

(主要目次)

日本のODA(1): フィジーの無断居住者地域におけるごみ処理改善—JICA 青年海外協力隊 (JOCV) の活動報告—

日本のODA(2): マレーシアサラワク州の地方村落のごみ処理改善—JICA シニアボランティア (SV) の活動報告—

※JSWME Newsletter は41号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会 HP から入手できます。

Contents of JSWME NL No.62

1. Dear Waste Management Experts
2. Japan's ODA on SWM (1):
— JOCV Activities for Waste Management for Squatter Settlements in Fiji —
3. Japan's ODA on SWM (2):
— SWM Improvement Project in a Rural Village in Sarawak, Malaysia —
4. Contents of Journal of the JSWME, Vol.18, No.4
5. Cartoon by High Moon:
"The hidden flow of material is destined further out of sight."

☆☆事務局だより☆☆

韓国の電子マニフェスト実施機関である韓国環境資源公社との交流の覚書を交わすため、11年ぶりに韓国を訪問した。ホテルや事務所内にはキャッシュ・ディスプレイが設置されており、出迎え車のカーナビも、窓ガラスに貼り付くコンパクトで、前方を向いたまま視認可能な検索機能も充実したものであった。電子化・情報化の分野では、日本は韓国に遅れを取りつつあることを実感した。環境省は、韓国で稼働している産業廃棄物減量化情報、再生資材情報、GPS 運行管理システム連動の電子マニフェスト、廃棄物関連電子許認可、マニフェスト情報利用廃棄物統計の各システムを統合した“Allbaro システム”を来年夏から義務化し、将来、このシステムを国際的に普及させようとの考えである。わが国でも、国の委託調査として「産業廃棄物総合情報管理システム」の研究が1991年から進められ、その成果が現在の電子マニフェスト制度の実現につながった。当学会としても、電子化・情報化を進めて情報の共有を図るとともに、アジア発の国際協調を進めることが重要である。メールサービスの普及はその第一歩ですので、学会メールニュースへの皆様の登録をよろしくお願いいたします。

(松村治夫 記)

11月19日（月）～21日（水）は、研究発表会開催のため、事務局は不在となります。

次号（学会ニュース No.102）は1月1日発行予定です。

※学会ニュースはホームページに掲載しています。印刷版の郵送が不要になった場合には、事務局までご連絡ください。